

蛋白定量[尿]				9000	
				担当部署	
U-TP				生化	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*5.尿・便・その他→			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		発熱性疾患、激しい運動、ストレス、うっ血性心不全などの際に一過性に蛋白尿がみられる。 通常の生活でも、起立性蛋白尿がみられることがある。			
検査受付時間		緊急対応(24 時間)			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		過激な運動後は一過性の蛋白尿が出現する場合がある。			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	新鮮尿	23 スピッツ	なし	10	mL
2	蓄尿	22 蓄尿	防腐剤、尿量インジゲーター	10	mL
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			

検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			
生物学的基準範囲		31.2～120.0mg/day 自動分析装置用試薬-AR ワコー マイクロ TP-AR 添付文書			
臨床判断値		設定なし			
基準値				単位	mg/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし			
臨床的意義		腎泌尿器系疾患のスクリーニングに用いられるもっとも基本的な検査の一つである。一般的に試験紙法による半定量がスクリーニングに用いられる。しかし蛋白の種類により感度が異なるため、ベンズジョーンズ蛋白のスクリーニングや腎不全患者での経過観察には本法のような定量検査が必要となる。生理条件下での蛋白尿には次のようなものが知られている。すなわち、過激な運動、精神的ストレス、多量の肉食、熱い湯での入浴後、月経前などに生理的蛋白尿が一過的に出現する。腎疾患以外の病態で見られる蛋白尿には、発熱時や黄胆に認められる熱性蛋白尿、尿路の炎症による血液・膿・粘液などの混入に基づく仮性蛋白尿、多発性骨髄腫や原発性マクログロブリン血症による Bence jones 蛋白、溶血や筋肉崩壊に伴うヘモグロビン尿、ミオグロビン尿などの特異的な蛋白尿が知られている。 三菱化学メディエンス 検査項目解説改訂第 4 版 725,2008			